

令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立宮浦中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		国語	数学	理科	社会	英語	全体
1年	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	50.8	49.7	51.3	49.6	50.1	50.3
2年	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	50.4	54.3	51	51	54.8	52.3
3年	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	52.2	52.4	50.2	52.3	50.6	51.5
全体	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	51.1	51.9	50.9	50.8	51.6	51.2

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第3学年対象)

教科	国語	数学
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	73 (112.3)	64 (112.3)

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●1年では、国語「登場人物の心情や場面について読み取ること」(本校46%全国65%)、英語「具体的な情報を聞き取ること」(本校41%全国56%)に課題があった。</p> <p>●2年では、国語「根拠を明確にして書くこと」(本校24%全国42%無答率58%)、理科「沸点の違いを利用して混合物を分離する知識」(本校19%全国42%無答率41%)に課題があった。</p> <p>●3年では、社会「九州地方の自然環境や産業について」(本校41%全国62%)、理科「水の電気分解についての理解」(本校42%全国66%)に課題があった。</p>	<p>●国語の平均正答率は73%で、対県比112、対全国比113であった。数学の平均正答率は64%で、対県比112、対全国比112であった。</p> <p>●国語では全ての設問に対して県、全国の正答率を上回っている。なかでも「敬語」の適切な使い方(国語4三)については、正答率71.8パーセントで対県で+34.1%、対全国で+31.5%という結果であった。</p> <p>●数学についても、おおむね県、全国の正答率を上回っているが、「関数の意味を理解し、言葉で正しく表現する問題」(数学4)については、38.5%の正答率であったのに対し、県は47.0%全国は48.0%であった。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○「宮中授業モデル」に沿った授業づくりの実践。</p> <p>○校内授業研による学び合い、高め合う教職員集団づくり。</p> <p>○ICTの効果的な活用。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案ならびに実践。</p> <p>②経営委員会において改善計画の共有。</p> <p>③全体研修による目指す授業の共有。</p> <p>④全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握と改善計画の立案ならびに実践。</p> <p>⑤各種学力調査の結果をもとに、課題のある内容についての類似問題を作成して全学年で実施。</p> <p>⑥⑤の結果を全職員で確認し、次年度の学力向上・定着プランを検討。</p>	<p>①6月～7月</p> <p>②6月</p> <p>③4月</p> <p>④8月・9月</p> <p>⑤11月</p> <p>⑥2月</p>	<p>○Q-U2回目の調査で、学習意欲の数値向上。(+1)</p> <p>○次年度のNRT調査で対全国比向上。(+1)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○Q-U「学校生活満足群」に位置づく生徒の増加。</p> <p>○Q-U「要支援群」の生徒への組織的な支援。</p>	<p>①全学級において、生徒との定期面談を実施し、生徒指導委員会や教育相談委員会で情報を共有する。</p> <p>②SSR担当との連携をとり、効果的な関わり方を検討、実践する。</p> <p>③生徒連携の会議をもち、個々の生徒についての情報共有を行う。</p> <p>④SCやSSWを講師にした職員研修を行い、生徒理解の仕方や今後の取組について理論研修を行う。</p>	<p>①これまで通り実施。</p> <p>②これまで通り実施。</p> <p>③8月</p> <p>④8月</p>	<p>・Q-U2回目の調査で、「要支援群」の生徒の減少。(全体で4%未満)</p>